

令和3年12月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 嶽崎俊郎

国際島嶼教育研究センター第216回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第216回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日 時：令和4年1月24日（月）16時30分～18時
会 場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）
WEB：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

西表島におけるオカヤドカリ類の貝殻利用と幼生放出

土井 航（鹿児島大学水産学部）

陸生のオカヤドカリは、水生のヤドカリと同様に巻貝の殻を移動可能な住居として利用しており、軟弱な腹部を常に殻の中に入れ、危険を感じたときには体全体を殻の奥に引っ込めて身を守る。オカヤドカリが利用する貝殻は海産腹足類に由来するため住宅事情は海中の水生ヤドカリよりも厳しい。穴開きの欠陥住宅や古民家で我慢する個体もみられる。貝殻を作る腹足類は有史以前から食糧として利用され、海岸付近には貝塚がみられる。オカヤドカリにとって、貝塚は魅力的な住宅展示場で、周辺で暮らす人間の残飯や排泄物はフードコートである。本発表の前半では西表島の2つの集落跡地と周辺の離島で行われたオオナキオカヤドカリという大型種の個体群構造と貝殻利用に関する研究例の紹介を通して、オカヤドカリと人間生活の関係について考察する。オカヤドカリの幼生は海中で生活するプランクトンであり、生育には海水が必要なため、抱卵雌はふ化幼生を海中に放すために波打ち際まで移動する。一般的には砂浜の上で波をかぶりながら、殻の中から幼生を出す。コムラサキオカヤドカリはマングローブを構成するヒルギ類の幹や枝、根につかまった状態で幼生を放出する。後半は浦内川河口で行なわれた同種の幼生放出に関連する木登り行動の野外調査の結果を紹介する。選択する木の種類や大きさ、位置と、幼生放出行動の周期性に、どのような適応的意義があるのか、他種の知見を交えながら考察する。

【対面式でのご参加（要登録・人数制限あり）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。また、ご参加いただく際には、マスク着用等、感染防止にご協力ください。センター会議室は先着15名様、奄美分室は先着9名様とします。

対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて1月20日（木）までにお知らせください。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、対面式を中止する場合もございますのでご了承ください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて1月20日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：1月20日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：西）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：生）

オンライン（Zoom）（申込期限：1月20日（木））

sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：山本）

（なお、対面式後の懇親会は、当面の間、開催いたしません）